

# 大浦公畫像

新聞新報常務行發  
九五町南町平縣島福  
次 隆 藤 伊 人 行 發  
一 港 宮 町 濱 名 小 縣 島 福

刊夕日五十二  
一ヶ月 三十錢  
一 部 二 錢  
廣告料 一行五十錢  
場所指定 十錢増  
日曜祭日翌日休刊

農大教授  
立花千秋氏  
近く石城郡にて  
梨栽培に付  
講演さる

石城郡農會では来る廿九  
日午前九時から内郷村御幸  
に協議、更に上水道工事  
費の五萬圓を常盤銀行か  
らうち借入れる件も可決  
した。

の女給ミツ子(三)は附近の  
年下の青年と喧嘩、巽に平町  
仙臺に愛の巢を営んでゐる  
が彼女は之で二度目の道行  
である。

遊平氏は夙に刀圭界の權威  
として名あり、巽に平町  
白銀町に開業し兩三年前小  
野田炭礦病院の院長として  
信頼厚かりしが今回大小名  
濱を目指して小名濱に進出  
せるものにて是れ迄の体験  
と不惑の年輩は忠家の信任  
を得べく殊に外科手術には  
天才的手腕あるとの評判で  
ある。

小名濱(魚市場調査)  
魚名 漁獲高 單價制  
中目 三十貫 廿二 廿六  
アラ 六十貫 十四 十五  
ナメタ 八十貫 五  
タコ 三百貫 一、八 一、五  
石持 三百貫 五  
鱈 六百貫 一箱五錢 一  
七十五錢  
マス(大敷初漁)六十貫 十  
入港数 底引船 廿  
アンコ船 八  
アグリ船 五  
地引 二

## 狩野 大浦公畫像 押し入れのすみから 派 野 大浦公畫像 を 發見!

### 時下數千圓の逸品

江名町江名、雜貨店主人  
屋の主人吉田菊太郎氏(五九)  
はこの程押し入れの隅から  
古ぼけた大浦公畫像を發見  
狩野永納筆とあるのに驚い  
て帝國美術鑑定局に鑑定を  
もとのまゝ眞筆と折紙がつ  
いた。

十二日にお祭して呉れる  
様と言つてきた。  
時下數千圓と時好れ好事  
家の眼を見張らせてゐる  
帝國議事堂に於ける  
六十七回議會  
報告は五月中旬頃

小飯場内土工藤康太  
郎が中之作で岩崩しに四十  
尺の崖から墜落重傷を負つ  
たことは既報したが、康太  
郎は山形縣東田川郡大和村  
の富裕な農家の長男で仔細  
あつて數年前家出、土工  
に身を落して流浪してゐた  
ものである。

中之作(本廠商店調査)  
平目 百貫 廿三 十  
メスケ 二百貫 五 一 四  
アカシ 五百貫 四 五  
タラ 千貫 〇 八  
ノド 三百貫 三 五 二  
ナメタ 三百 四 一 二  
ナマコ 三千本 四 錢  
タコ 二百貫 一、五 一 二  
入港数 底引船 卅隻  
江名濱(和深商店調査)  
アカ 千五百貫 二、五 一 〇、七  
メスケ 六百貫 四、五 一 五  
タコ 三百貫 一 一  
入港数 底引船 五隻

## 裕福な家の長男 國からは 搜索願

赤井村川瀬炭坑の人事係  
爆薬盜難事件の  
捕縛の功により  
平著に表彰さる

既報三月八日石城郡赤井  
村川瀬炭坑に發生したる爆  
薬盜難事件は赤井村全村を  
襲つた。この時、赤井村の  
長男長太郎は、この時、赤  
井村の長男長太郎は、この  
時、赤井村の長男長太郎は、  
この時、赤井村の長男長太  
郎は、この時、赤井村の長  
男長太郎は、この時、赤井  
村の長男長太郎は、この時、  
赤井村の長男長太郎は、こ  
この時、赤井村の長男長太  
郎は、この時、赤井村の長  
男長太郎は、この時、赤井  
村の長男長太郎は、この時、  
赤井村の長男長太郎は、こ  
この時、赤井村の長男長太  
郎は、この時、赤井村の長  
男長太郎は、この時、赤井  
村の長男長太郎は、この時、  
赤井村の長男長太郎は、こ

江名消防第一部長長白  
土國治氏(四三)は廿八日郡山  
に開かれる組頭大會の席上  
優良消防手として縣から表  
彰されることになった。  
△カムチャツカ鮭鱈漁業へ  
出發の爲の江名中之作を  
通じ二十隻の底引船が底  
引漁業を打ち切つて準備  
中

## 女給駈け落 のやり直し

江名町中之作某カフエー  
△臨時縣會で江名に割當て  
ない。

今晩は南東の風で晴  
明日は東の風で天気次第  
に悪くなる。  
氣壓は七百六十三ミリ四

廣告の御用命は  
部數の多い  
常盤新聞へ

三千坪の船曳場

中之作港で計劃

發起人は船主

中之作では既報の如く船曳農林省水産局調査の我國水場を造るために長屋全部を産會数は昭和九年十二月末移轉するが、この爲出来上で左の通り。  
 敷地は六百坪で僅か二十  
 都市水産會 三〇五  
 道府縣水産會 四〇  
 帝國水産會 一  
 が出來ず、大型船船船を  
 入れた他の四十隻はよその港  
 に頼む外ない現狀である。に依り行政官廳の認可を得  
 てこれではならぬと中之て設立せられ水産業の改良  
 作の全船主が相談、防波堤發達を目的とする法人であ  
 の南の海面三千坪を埋立てる。  
 、宏大な船曳場を造ること  
 になつた。工費一萬八千圓  
 内五千圓は元の船曳場を埋  
 立て住宅地に賣却した剩餘  
 金を使用、それに船主が所  
 有船各一隻に對して百圓づ  
 を據出し不足分は農林省  
 の補助を仰ぐことになつて  
 る。

福島縣漁業組合數

農林省水産局調査に依る昭和七年度末の縣内漁業組合數は左の通り。  
 組合員數 組合數  
 五十人以上 廿四  
 百一人—二百人 七  
 二百一人—五百人 四  
 五百一人—千人 一  
 千人以上 〇  
 組合總計 四〇  
 組合員總數 三千五百一人  
 なほ福島縣には漁業組合聯合會は一も無い。

水産物生産高

農林省調査に依る昭和八年度の日本全國の水産物總生産高は二億五千六百萬圓で内譯は左の通り。

魚類 一億八千百萬圓  
 藻類 一千五百萬圓  
 貝類 一千萬圓  
 其他四千九百萬圓

我國の水産會數

はリスク  
**資生堂**  
 町濱小  
 番七四一話電

開業廣告

一般外科 (整形外科)  
 内科 花柳病科

草野醫院


小名濱町郵便局隣

親切KS第一  
 船用電氣 各種發電機  
 各種蓄電池 捲替修理  
 各種電球 販賣  
 啓城小名濱町  
 スマヤ電氣部  
**ケーエス商會**  
 店主 小濱敬太郎  
 電一五九

善改術技  
 製作品種目  
 高圧タービンポンプ  
 電動捲揚機械  
 シロコ旋風機  
 コイルクラッシュヤ  
 送炭用チェーンコンベヤ  
 價廉品良  
 福島縣平町字堂前  
**吉田伴吉商店**  
 電話平二二五番  
 吉田伴吉商店東京出張所  
 東京市京橋區入舟町三ノ一  
 電話京橋五七二三番

眼科専門  
**小名濱眼科醫院**  
 小名濱町

註文靴  
 5.00 以上より  
 修繕  
 1.00 以上より  
 1.70 以下まで  
 小名濱町(郵便局東隣り)  
**平屋靴製造店**




魚市場 油部  
**磐城水産工業株式會社**  
 社長 長配支 小福人  
 野尾町濱小 電話一四四番  
 野伊 電話一四四番  
 平太郎  
 本社 小名濱町  
 支店 平太郎  
 代理店 三井火災保險株式會社

外科専門  
**上田科醫院**  
 レントゲン科  
 病室の設備入院應需  
 平町南町  
 電話一八九

化醫一高  
 療般級  
 器藥賣  
 品具品藥  
**寶屋藥舖**  
 小名濱町古港  
 電話三十九番

小名濱分院開設  
 耳鼻科 専門  
 咽喉科 専門  
 毎週月、水、金、土、日、午後五時出診  
**大和田醫院**  
 本院平町南町一六電話平一七〇番

淋病ノ靈藥  
**サコメ球**  
 發賣元 開陽堂藥舖  
 藥劑師 松崎  
 小名濱銀座街



眼科専門  
**鈴木科醫院**  
 本院 植田町  
 分院 小名濱町古港

内科、小兒科  
 婦人科、花柳病科  
**久保田醫院**  
 小名濱町 電話二二番